

令和4年3月3日

研究計画・評価分科会事務局

## これまでの経緯

1. 「国の研究開発評価に関する大綱的指針」及び「文科省における研究及び計画に関する評価指針」を踏まえ、「研究開発計画」に「研究開発プログラム」の評価の進め方が記載された（参考参照）。
2. 当該計画に基づき、第10期の科学審研究計画・評価分科会（以下、「分科会」という）において試行的な取り組みを行ったが、当該プログラム評価の試行には、困難を伴うとの意見が多く出された。その結果を踏まえ、同分科会において、分野別戦略・計画の策定を含む新たな仕組みが提案され、分科会に設置されている委員会等（以下、「委員会」という）に対し、2つの視点（①分野別戦略・計画の策定について、②EBPMのベースとなるエビデンスと分野別戦略・計画及び分野別プログラムの関係について）を提示し、意見照会を行った。
3. 上記の結果、2つの視点については、概ね理解が得られつつある状況であったが、同時に、分野共通的な課題等については引き続きの議論が必要とされ、これらを第11期分科会に引き継ぐこととされた。
4. 令和3年4月21日に開催された第11期の最初の分科会でこれまでの経緯について説明を行い、8月の分科会で分野別研究開発プラン（仮称）・プログラムのフォーマット案とプログラム評価のフォーマットの素案を提示。プラン・プログラムのフォーマット案について委員会での審議を依頼することとなった。
5. 令和4年1月に開催された分科会にて、分野別研究開発プランの策定方針が決定された。

# 文部科学省における研究及び開発に関する評価指針 (プログラム評価関係部分の抜粋)

1. 研究開発プログラムとは：複数の研究開発課題を運営する施策や競争的資金制度等、研究開発に係る政策上の特定の目的や目標の実現を目指して、推進方針や戦略・計画・実施手段等の体系が整備され、それに応じて推進されるものをいう。

2. 研究開発プログラムの評価：文部科学省内部部局及び研究開発法人等が、このような施策や制度等を対象として、目標の設定された研究開発プログラムごとに評価を実施することにより、実施の当否を判断するとともに、研究開発の質の向上や運営改善、計画の見直し等につなげることを目的とする。

3. 評価者：評価実施主体は、評価の客観性や正当性を確保するという前提の下、自己評価を基盤とし、研究開発を取り巻く諸情勢に関する幅広い視野を評価に取り入れるため、必要に応じて外部の専門家等を評価者とする外部評価や第三者評価（以下「外部評価等」という。）を実施・活用する。

4. 評価の実施時期：  
研究開発プログラムの開始前に事前評価を行う（国の政策や機関等の設置目的に照らした研究開発プログラムの位置付け、実施の必要性、研究開発プログラムが担う範囲、目的や目標、実施手段、見直し方法等の妥当性等を把握し、予算等の資源配分の意思決定等を行うため）  
研究開発プログラムの終了時に事後評価を実施する（目標の達成状況や成果等を把握し、その後の施策展開への活用等を行うため）  
研究開発プログラムに実施期間の定めがない場合には、5年ごとを目安に、情勢の変化や目標の達成状況等を把握し、研究開発の質の向上や運営改善、中断や中止を含めた計画変更等の要否の確認等を行うため、中間評価を実施する

## 5. プログラム評価の視点

事前評価では、研究開発プログラム評価の観点を踏まえ、上位政策と関連政策との位置付け、目的・目標・当該研究開発プログラムが担う範囲、それらを実現するための仕掛けや仕組み、循環的な研究開発プログラムの見直し方法とそのための情報収集体制等の妥当性に関し、評価項目・評価基準を具体的に定め、類似の研究開発プログラムや当該研究開発プログラムが実施されなかった場合との比較の視点から評価する。

中間・事後等の評価では、研究開発プログラム実施に伴う実績の把握を中心に行う。

評価の観点及び評価項目・評価基準は事前評価と同様の観点であるが、

- ・アウトカムに係る期待した成果と実績との比較（達成度評価）
- ・評価基準に照らした実績の多寡（価値評価）、
- ・上位政策や関連政策との位置付けも踏まえた研究開発プログラムの効果を高めるための修正・改善方策（レビュー評価）等の観点から評価を行う。

6. 評価については、評価に先立つ調査分析法から評価法そのものに至るまで様々な手法があり、その対象や時期、評価の目的や入手可能な情報の状況等に応じて適切な調査・分析及び評価の手法を選択する。

その際、評価の客観性を確保する観点から、具体的な指標・数値による評価手法を用いるよう努める。

**(プログラム評価の試行結果関係)**

**1. 「後付けの評価を行うことが相応しくないのではないかとの印象」**

→分野別研究開発プラン(仮称)を毎年度更新し、当該プランに基づきプログラム評価を実施する

**2. 「研究開発プログラム全体を改めて俯瞰することの意義」**

→客観的指標を中心に確認することにより、新たな視点で俯瞰し、現状を把握する

**3. 「ノウハウ・スキルの両面で困難」**

→毎年度、政策評価等の指標をモニタリングするということから始めて、SciREXプログラムの成果などを取り入れ、順次進展させる

**(第10期の議論のまとめ関係)**

**4. 「負担軽減、評価の屋上屋排除、評価スキル・ノウハウの習得や、評価担当者のリテラシー向上」**

→政府全体の戦略・計画や政策評価等既存の体系の活用により、可能な限り評価の重複を排除する。政策評価等体系の既存の指標を全体俯瞰することから始め、俯瞰する指標についての議論を重ねることにより、徐々に関係者のリテラシーを向上していく

## 1. 分野別研究開発プラン（仮称）の策定

- ① 政策評価の体系に基づき、毎年度分野別委員会等で添付のフォーマットに従って、分野別研究開発プラン（仮称）案を策定
- ② 8月に開催される研究計画・評価分科会で、各分野別研究開発プラン（仮称）を決定  
\*分野別研究開発プラン（仮称）において、研究開発プログラムの単位を明確にする

## 2. 研究開発プログラムの評価

研究開発プログラム毎に

- 政策評価における測定指標
- プログラムに含めた達成目標を構成する事業の、行政事業レビューにおける成果指標（アウトカム）、活動指標（アウトプット）、政策評価における測定指標
- その他適切と思われる指標（分野別委員会等で検討）

などについて、添付のフォーマットに従い、プログラム全体の状況を把握（モニタリング）し、毎年冬に、分野別委員会等から研究計画・評価分科会に報告する。その際、プログラム全体や研究開発課題の進捗状況がわかる既存の数ページ程度の資料を当該フォーマットに添付する。

なお、指標については、分野別委員会等や研究計画・評価分科会の議論を踏まえ、適宜変更できるものとする。

### 1. 分野別研究開発プラン（仮称）の策定

- ① 政策評価の体系に基づき、毎年度分野別委員会等で添付のフォーマットに従って、分野別研究開発プラン（仮称）案を策定
- ② 8月に開催される研究計画・評価分科会で、各分野別研究開発プラン（仮称）を決定  
\*分野別研究開発プラン（仮称）において、研究開発プログラムの単位を明確にする

→フォーマットを改定することにより、R4年1月26日の計評分科会で概ね了承。

### 2. 研究開発プログラムの評価

研究開発プログラム毎に

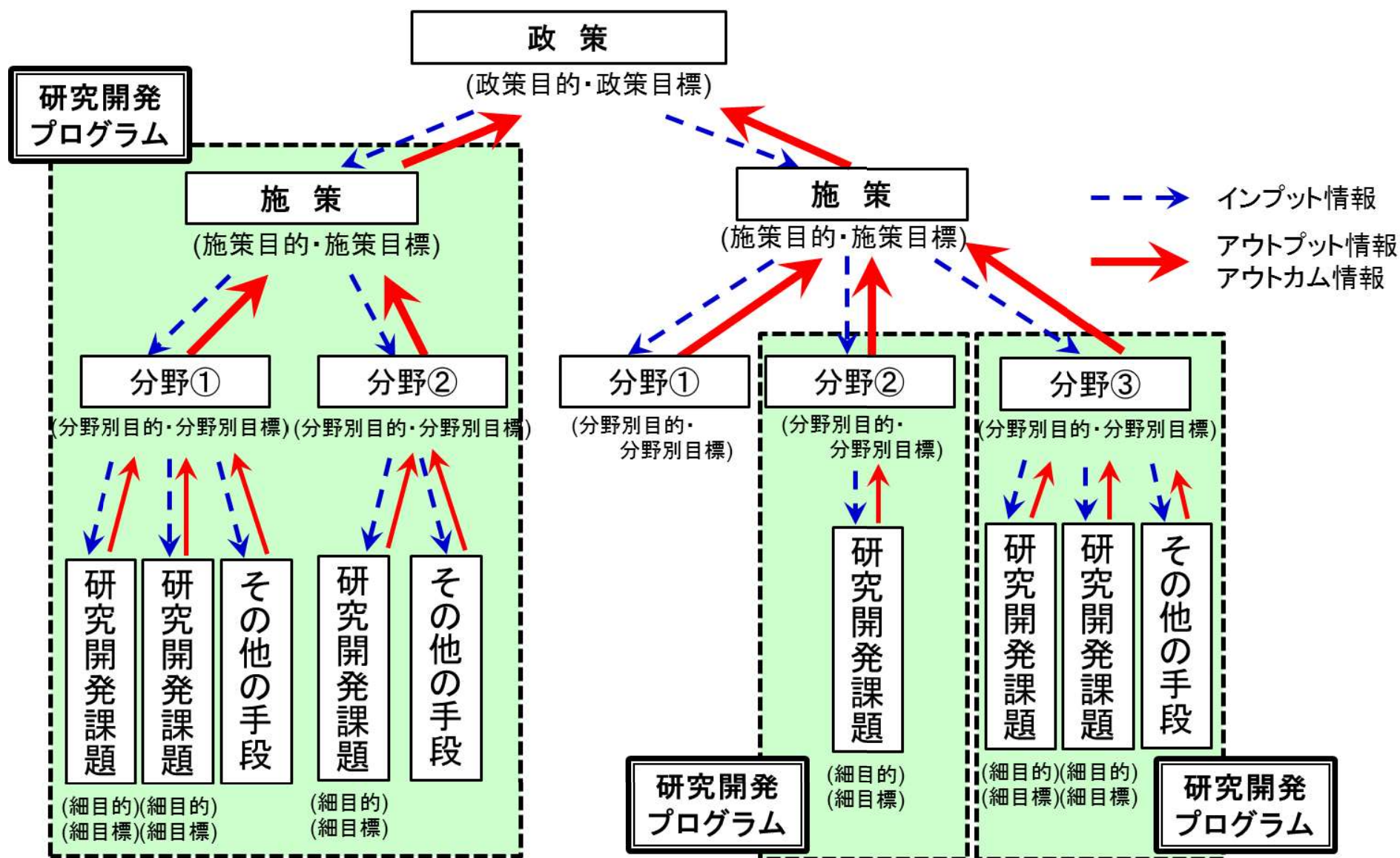
- 政策評価における測定指標
- プログラムに含めた達成目標を構成する事業の、行政事業レビューにおける成果指標（アウトカム）、活動指標（アウトプット）、政策評価における測定指標
- その他適切と思われる指標（分野別委員会等で検討）

などについて、添付のフォーマットに従い、プログラム全体の状況を把握（モニタリング）し、毎年冬に、分野別委員会等から研究計画・評価分科会に報告する。その際、プログラム全体や研究開発課題の進捗状況がわかる既存の数ページ程度の資料を当該フォーマットに添付する。

なお、指標については、分野別委員会等や研究計画・評価分科会の議論を踏まえ、適宜変更できるものとする。

→委員会等事務局より、負担軽減等について意見をいただいた結果を踏まえ、本日議論予定。

# 『研究開発プログラム』の範囲のイメージ



「文部科学省における研究及び開発に関する評価指針」より抜粋

## (2) 指針等におけるプログラム評価についての記載について

## 1. 平成28年12月21日：「国の研究開発評価に関する大綱的指針」が内閣総理大臣決定

特に留意すべき事項の一つとして、実効性のある「研究開発プログラムの評価」をさらに推進することが記載

## 第1章 基本的な考え方

## II. 研究開発評価の改善への新しい取組（改定の方向）

## 1. 実効性のある『研究開発プログラムの評価』のさらなる推進

イノベーションを創出するためには、あるべき社会の姿を描き、その実現に向けて必要な手段を組み合わせることで解決を図ることが必要である。また、国費を用いてイノベーションを生み出すためには、あるべき社会の姿の実現を政策・施策等の目的として、具体的な政策・施策等の目標を設定し、それに必要な研究開発課題等の活動を組み合わせることで実行することとなる。

このとき、これらの活動のまとめりとして構成した『プログラム』の単位で研究開発を推進し、『プログラム』を推進する主体の行動及びその結果を評価していくことが重要であることを踏まえ、『研究開発プログラムの評価』のさらなる推進を図る。

## 2. 平成29年4月1日：「文部科学省における研究及び開発に関する評価指針」が文部科学大臣決定

## 2. 1 研究開発プログラムの評価

## 2. 1. 1 評価の目的

研究開発プログラムとは、複数の研究開発課題を運営する施策や競争的資金制度等、究開発に係る政策上の特定の目的や目標の実現を目指して、推進方針や戦略・計画・実施手段等の体系が整備され、それに応じて推進されるものをいう。（参考2参照。）

研究開発プログラムの評価は、文部科学省内部部局及び研究開発法人等が、このような施策や制度等を対象として、目標の設定された研究開発プログラムごとに評価を実施することにより、実施の可否を判断するとともに、研究開発の質の向上や運営改善、計画の見直し等につなげることを目的とする。

文部科学省内部部局は、「行政機関が行う政策の評価に関する法律」や「文部科学省政策評価基本計画」等に基づく政策評価の中でも、研究開発プログラムの評価に当たっては、本指針に基づき行う。

## 3. 平成29年2月8日：「研究開発計画」の策定（第60回研究計画・評価分科会）

研究開発計画に掲げた中目標を「研究開発プログラム」として、俯瞰的な評価を新たに行うことが記載

## 第6章 研究計画・評価分科会における研究開発評価の在り方

## I. 基本的な考え方

## 3. 研究開発評価の改善への新しい取組

## (1) 「研究開発プログラム」単位での評価

研究開発計画の評価については、研究開発計画に掲げた中目標を「研究開発プログラム」として、俯瞰的な評価を新たに行うこととする。その際、分科会が所管する内局予算による個別の研究開発課題の評価結果に加え、当該中目標に係る国立研究開発法人の行う研究開発課題の評価結果（国立研究開発法人評価の結果等）や政策評価における事前分析表等を活用し、中目標達成のための研究開発の取組全体を総合的に評価する。

分野別研究開発プログラム進捗状況フォーマット素案等  
に対する御意見について

令和 4 年 3 月 3 日  
研究計画・評価分科会事務局

「分野別研究開発プラン及び分野別研究開発プログラム策定の進め方」について、研究計画・評価分科会各委員会及び情報委員会（以下、「各分野別委員会等」）で議論いただいた際、分野別研究開発プログラムの評価についての考え方も紹介いただきました。

その結果、いただいた以下のような御意見を添付でまとめ、併せてそれらの対応方針案を記載した。

- 1) プログラム評価にかかる負担軽減について
- 2) プログラム評価のフォーマットについて
- 3) 分科会提案以外の形での評価の取り扱いについて
- 4) プログラム評価の評価者について
- 5) 事業の進展に伴う軌道修正の仕組みについて
- 6) プログラム評価の必要性について

また、これらの意見を踏まえて、分野別研究開発プログラムの評価の進め方について、以下のとおり考慮し、案を作成した。

1. フォーマットに、「事前分析表」及び「行政事業レビューシート」が添付できるようにする。
2. 第 11 期中に 1 度試行を行い、その後は、隔年毎（期の間には 1 分野を 1 度）に行う。ただし、第 11 期の試行の結果を踏まえ、今後の進め方の提案も含め、次期に申し送りを行うこととする。



## 研究開発プログラムの評価に関する各分野別委員会等からのご意見

事項	委員会名	対応方針案
<b>1. 研究開発プログラムの評価に関すること</b>		
<b>(1) プログラム評価にかかる負担軽減について</b>		
① 毎年の進捗状況報告が必要であるか再度検討いただきたい。	ライフサイエンス委員会	来年度試行後は、当面隔年実施にする。
② 毎年の進捗状況報告が必要であるか再度検討いただきたい。	核融合科学技術委員会	来年度試行後は、当面隔年実施にする。
③ 中間評価の負担軽減策が示されているところではあるが、中間評価を含む研究開発課題評価やプランに基づく評価等の実施は負担が大きいため、プランに基づく評価に当たっては、実効性を持たせつつ負担軽減を図るべき。	環境科学技術委員会	隔年実施にし、事前分析表、行政事業レビューシートも使用可とすることでフォーマットは簡素化する。
④ 地震調査推進本部、科学技術・学術審議会測地学分科会、国立研究開発法人審議会防災科学技術研究所部会におけるフォローアップ等の整合性に留意するとともに、屋上屋を架すようなものとせず、関係者の過度な負担を防ぐ配慮が必要ではないか。	防災科学技術委員会	政策評価と同体系にし、事前分析表も使用可とすることで負担を最小限にする。
<b>(2) プログラム評価のフォーマットについて</b>		
① 基本的には政策評価の「事前分析表」の達成目標等とプランの内容を合わせる方向としたい。そのこととあわせて、「事前分析表」とあわせる方向で「モニタリング」用のフォーマットについては工夫されたい。	ライフサイエンス委員会	事前分析表、行政事業レビューシートも使用可とすることでフォーマットは簡素化する。
② 進捗度記入様式について、政策評価の際に用いられる「事前分析表」が存在するため、事務作業低減の観点から「事前分析表」を活用し、様式や項目を合わせるべきではないか。（ナノ）	ナノテクノロジー・材料科学技術委員会	事前分析表、行政事業レビューシートも使用可とすることでフォーマットは簡素化する。
③ 評価作業の重複・負担軽減の観点から、基本的には政策評価の「事前分析表」の達成目標等と研究開発プランの内容を合わせる方向といたしたく、その点も含めて分野別委員会の裁量に委ねて頂きたい。	核融合科学技術委員会	事前分析表、行政事業レビューシートも使用可とすることでフォーマットは簡素化する。
<b>(3) 計評分科会提案以外の形での評価の取り扱いについて</b>		
① 例えば、Q-LEAP事業が対象とする光・量子技術分野に関しては、内閣府において、「量子技術イノベーション戦略」が定められており、研究開発から産業化までの幅広い取組を一体的に実施することとされている。当該戦略については、「量子技術イノベーション会議」がフォローアップの役割を担っており、評価体制が整っているところ。従って、当該フォローアップの結果を分科会に報告することで対応することとしてはどうか。	量子科学技術委員会	当面は今回提案のプログラム評価に対応いただきつつ、今後の「量子技術イノベーション会議」におけるフォローアップの内容を踏まえ、連携の可能性も含めて検討。
② 「量子技術イノベーション戦略」に含まれない量子ビーム利用推進小委員会の所掌範囲については、各研究開発課題が大型研究施設の整備・共用に関する補助金である。従って、従来から実施されている「特定の研究開発課題に関する事前評価、中間評価、事後評価」の中で、大型研究施設全体の関係性を考慮した俯瞰的な意見を小委員会から伺うこととしてはどうか。	量子科学技術委員会	大型研究施設の整備・共用に関するプログラムとして、量子ビーム利用推進小委員会の意見も踏まえ、量子科学技術委員会において対応いただく。
<b>(4) プログラム評価の評価者について</b>		
① 検証の主体は審査委員や文部科学省のみならず第三者、つまりマスコミや一般社会も含めるべき。一方で、そうした検証を促進させるためにも、事業の意図や本質をよく理解できる人材の育成、情報公開、成果の普及が必要。そのためには、計画段階から、データマネジメントプランのみならず、産学連携によりプロジェクトを持続可能にする見通しや情報公開の取り組みという観点を加えてはどうか。PDCAを掲げ続けるのなら企業運営を参考にすべきだ。	ライフサイエンス委員会	各委員会での議論の参考としていただく。
<b>(5) 事業の進展に伴う軌道修正の仕組みについて</b>		
① 評価基準について、5年以上の事業を評価する場合、環境の変化を考慮し、研究者以外の第三者が軌道修正できる仕組みが必要ではないか。	環境科学技術委員会	計評分科会では専門以外の研究者以外の方にもご参加をいただいております現段階でも対応しているとの認識。
② 示した指標を満足するよう（評価が上がるよう）に努力するのではなく、目標を達するために努力したことが分かるように、目標を達するための指標等を当初のものに固定するのではなく、目標達成に寄与したものを柔軟に追加できるようにしても良いのではないかと。例えば、枠を増やすのではなく、備考に追加することも考えられる。	原子力科学技術委員会	フォーマットでは各課題に備考欄、「プログラムの現状についてのコメント」欄を設けている。
③ 今の研究開発プログラム評価におけるフォローアップのやり方だと、当初設定した予定からいかに逸脱していないかの報告資料を求めているような印象がある。予定通りの成果を評価するだけでなく、想定から大きく乖離した成果（すなわち、常識を覆す画期的な成果）なども肯定的に評価できるような研究テーマの性質に依存した柔軟性のある評価制度とできることが望ましいのではないかと。	情報委員会	文科省指針でも対応がされており、備考欄に状況を記載いただくことで対応いただく。
<b>(6) プログラム評価の必要性について</b>		
① PDCAサイクルや指標に基づく評価が進んでいるが、研究開発にはそもそもすぐわかない尺度。それでも実施せざるを得ない場合、資料3（「研究開発プログラムについて」等）に示される「全体を俯瞰した適切な評価」は大変な作業。評価する側もされる側も疲弊するだけでメリットが少ない。研究開発においては位置づけを経時的に助言する仕組みとし、「評価」よりも有識者委員等が助言をする仕組みにし、名称もそれに合わせたものにできないか。	ライフサイエンス委員会	当面は、政策評価等の指標をモニタリングすることから始めることで負担を最小限にする。有識者委員等の助言は、フォーマットの備考欄に記載することで対応いただく。
② 有識者の助言に基づき、事業を円滑・効率的に実施したという書類を作成しても、事業が真に順調かどうかは数人の審査委員だけでは決めるのは困難。最終的には長期的・継続的なフォローアップが必要。そのためには、短期的な評価の仕組みよりも、進行が透明性をもって確認できること、公開情報を参考にして進捗を誰もが確認できる状況を作ることこそ重要。	ライフサイエンス委員会	すでに公表されている政策評価や行政事業レビューの指標など利用することから始め、進行が透明性をもって確認できる仕組みを作ることを目指す。
<b>2. 評価結果の取り扱いについて</b>		
<b>(1) 指標の分析について</b>		
① 査読付き論文数の指標に関し、より詳しい論文の解析をすると我が国のナノテクノロジーの人材の状況・研究の現状なども見えてくる。論文をサンプリングなどにより収集して、たとえば、著者の属性（教員（年齢、立場）、博士学生、修士学生、企業研究員など）を分析し、特に研究人材環境、人材育成状況などを指標に加えてはどうか。	ナノテクノロジー・材料科学技術委員会	各委員会での議論の参考としていただく。
<b>(2) 定量評価に偏らない評価の工夫について</b>		
① （プログラム評価のフォーマットについて）指標が、研究件数、受賞件数、発表件数のように表面的な指標になりがちであると思われる。質が見えるように工夫することも検討していただきたい。	原子力科学技術委員会	各委員会での議論の参考としていただく。
<b>3. その他</b>		
① 研究開発に係る事業が我が国としての政策実現にどれだけ貢献したかという視点で行われる評価は大切。同時に、事業による成果を政策に反映していくことも重要であり、この観点から事後評価は重要。	環境科学技術委員会	—

## 研究開発プログラムの評価

最新の分野別研究開発プランにおいて定められた研究開発プログラム毎に

- 政策評価における測定指標
- プログラムに含めた達成目標を構成する事業の、行政事業レビューにおける成果指標（アウトカム）、活動指標（アウトプット）
- その他適切と思われる指標（分野別委員会等で検討）

などについて、添付のフォーマット（事前分析表及び行政事業レビューシートを添付可）に従い、プログラム全体の状況を把握（モニタリング）し、分野別委員会等から研究計画・評価分科会に報告する。その際、プログラム全体や研究開発課題の進捗状況がわかる既存の数ページ程度の資料を当該フォーマットに添付する。

なお、指標については、分野別委員会等や研究計画・評価分科会の議論を踏まえ、適宜変更できるものとする。

第11期中には1度実施するものとし、その後、当面は各委員会毎に隔年で行うこととする。ただし、第11期中の試行の結果については、期の最後にまとめ、今後の進め方の提案も含め、次期に申し送りを行うこととする。

# 分野別研究開発プログラム評価の将来に向けての進め方のイメージ（案）

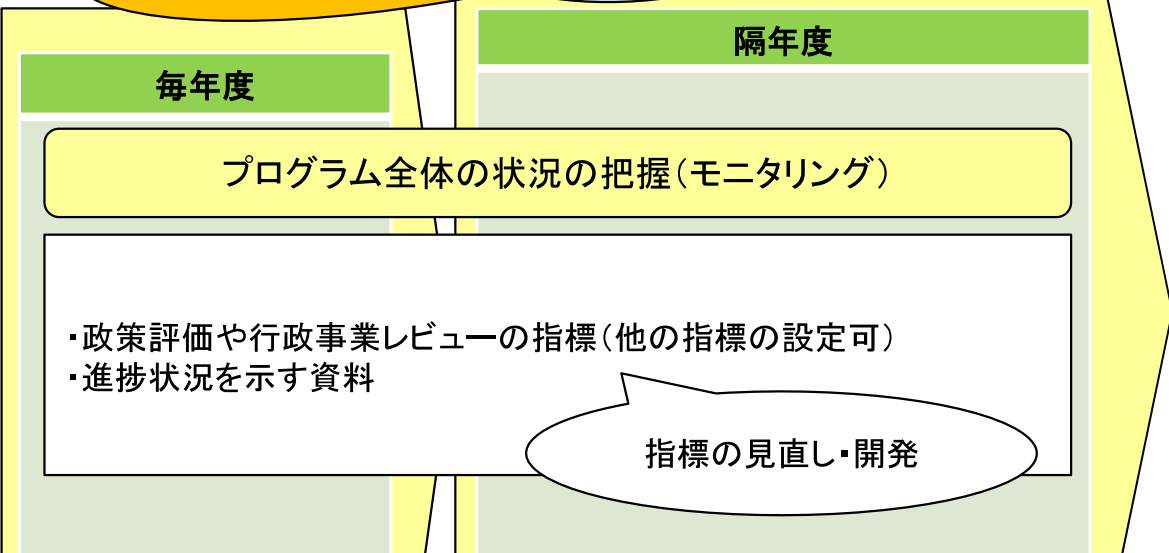
## プログラム評価の目的

研究開発プログラムの実施の当否を判断、研究開発の質の向上や運営改善、計画の見直し等

領域間の配分やプログラム運営の適切性等の視点も含めた研究開発プログラムの評価

プログラムの評価手法等の  
開発・改良、評価の高度化  
評価手法等の具体化

様々な評価の有機的な連携



事前評価	中間評価 (約5年おき)	事後評価	(追跡評価)
類似のプログラムや当該プログラムが実施されなかった場合との比較	<ul style="list-style-type: none"> <li>アウトカムに係る期待した成果と実績との比較(達成度評価)</li> <li>評価基準に照らした実績の多寡(価値評価)</li> <li>上位政策や関連政策との位置付けも踏まえた研究開発プログラムの効果を高めるための修正・改善方策(レビュー評価)等</li> </ul>		
<p><b>評価の観点</b> 「必要性」、「有効性」、「効率性」等</p>			
<p><b>評価項目・評価基準</b> 以下に関する評価項目・評価基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>上位政策と関連政策との位置付け</li> <li>目的・目標・当該研究開発プログラムが担う範囲</li> <li>それらを実現するための仕掛けや仕組み</li> <li>循環的な研究開発プログラムの見直し方法とそのための情報収集体制等の妥当性</li> </ul>			

第11期

第12期

第13期～

プログラム評価の定着後

プログラム評価の試行

次期科学技術・イノベーション基本計画(2026年～)

※それぞれの段階における利害関係者の範囲については整理が必要

※青字：各分野別委員会等へ照会時から追記した箇所  
※青字取消し線：各分野別委員会等へ照会時から削除した箇所

## 研究開発プログラムの評価

最新の分野別研究開発プランにおいて定められた研究開発プログラム毎に

- 政策評価における測定指標
- プログラムに含めた達成目標を構成する事業の、行政事業レビューにおける成果指標（アウトカム）、活動指標（アウトプット）、~~政策評価における測定指標~~
- その他適切と思われる指標（分野別委員会等で検討）

などについて、添付のフォーマット（事前分析表及び行政事業レビューシートを添付可）に従い、プログラム全体の状況を把握（モニタリング）し、~~毎年冬に~~分野別委員会等から研究計画・評価分科会に報告する。その際、プログラム全体や研究開発課題の進捗状況がわかる既存の数ページ程度の資料を当該フォーマットに添付する。

なお、指標については、分野別委員会等や研究計画・評価分科会の議論を踏まえ、適宜変更できるものとする。

第11期中には1度実施するものとし、その後、当面は各委員会毎に隔年で行うこととする。ただし、第11期中の試行の結果については、期の最後にまとめ、今後の進め方の提案も含め、次期に申し送りを行うこととする。

○○プログラムの進捗状況把握によるプログラム評価（令和○年度）（フォーマット案）

資料4-4  
科学技術・学術審議会  
研究計画・評価分科会  
第4回部 第4.3

令和○年○月 ○○委員会

1. ○○分野研究開発プランを推進するにあたっての大目標：「○○」（施策目標○-○）

概要	（※当該分野研究開発プランに記載のプランを推進するにあたっての大目標の概要を記載する。）
----	--

2. プログラム名：○○

概要	（※当該分野研究開発プランに記載のプログラムの概要を記載する。）
----	----------------------------------

3. プログラムの実施状況

(1) プログラム全体に関連する指標及びその状況（※プログラムで設定した指標とその状況を記載。）

※プログラム開始から終了等の適切な年度までについて記載する。

年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029
	FY30	FY31	FY2	FY3	FY4	FY5	FY6	FY7	FY8	FY9	FY10	FY11
アウトプット 指標												
アウトカム 指標												
備考	（※特記事項があればその内容について簡潔に記載する。）											

(2) 個別の研究開発課題に関連する指標及びその状況

※研究開発課題数に合わせて記載欄は調整する。

※研究開発課題評価実施年度の欄に、評価実施（予定）年度に従い、「事前」・「中間」・「事後」と記載する。

※各研究開発課題の進捗状況把握のため、政策評価における事前分析表及び行政事業レビューシートを使う場合は、当該資料を添付し、使用する指標について「既存の指標を参照する場合」欄に必要事項を明記することで、「既存の指標を転記する場合」欄への転記を省略することができる。

※事前分析表及び行政事業レビューシートに記載されている指標以外の指標を設定する場合は、「既存の指標以外の指標を記載する場合」欄に必要事項を明記すること。インパクト/アウトカム/アウトプットの定義については、「文部科学省における研究及び開発に関する評価指針」（最終改定平成29年4月1日）「本指針における用語・略称等について」を確認すること。

※「既存の指標を転記する場合」欄～「既存の指標を参照する場合」欄について、使用しない行は削除すること。また、目標値を設定していない年度については「-」と記載する。

①□□□・・・（※プログラムに記載の重点的に推進すべき取組を記載する。）

目的・概要	<目的>												
	<概要>												
	（※研究開発課題ごとに、直近の評価結果に記載されている目的及び概要を記載する。）												
課題実施 機関・体制													
	年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029
	（※網掛けは課題実施期間）	FY30	FY31	FY2	FY3	FY4	FY5	FY6	FY7	FY8	FY9	FY10	FY11
	研究開発課題評価実施年度												
	予算額及び翌年度要求額（億円）												
既存の指標を 転記する場合	指標の種別 (測定/成果/活動)	指標	単位	実績値					目標値				
既存の指標以 外の指標を記 載する場合	指標の種別 (インパクト/アウトカム/アウトプット)	指標	単位	実績値					目標値				
既存の指標を 参照する場合	指標の種別 (測定/成果/活動)	指標	添付資料の 該当頁（頁）	添付資料の該当頁の該当箇所									
添付資料名	（※当該研究開発課題について、進捗状況を示す資料等を添付し、その資料名を記載する。）												
備考	（※特記事項があればその内容について簡潔に記載する。）												

②△△△・・・（※プログラムに記載の重点的に推進すべき取組を記載する。）

目的・概要	<目的>												
	<概要>												
	（※研究開発課題ごとに、直近の評価結果に記載されている目的及び概要を記載する。）												
課題実施 機関・体制													
	年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029
	（※網掛けは課題実施期間）	FY30	FY31	FY2	FY3	FY4	FY5	FY6	FY7	FY8	FY9	FY10	FY11
	研究開発課題評価実施年度												
	予算額及び翌年度要求額（億円）												

既存の指標を転記する場合	指標の種別 (測定/成果/活動)	指標	単位	実績値					目標値				
既存の指標以外の指標を記載する場合	指標の種別 <small>(インパクト/プログラム/アウトプット)</small>	指標	単位	実績値					目標値				
既存の指標を参照する場合	指標の種別 (測定/成果/活動)	指標	添付資料の 該当頁(頁)	添付資料の該当頁の該当箇所									
添付資料名	(※当該研究開発課題について、進捗状況を示す資料等を添付し、その資料名を記載する。)												
備考	(※特記事項があればその内容について簡潔に記載する。)												

③▽▽▽・・・ (※プログラムに記載の重点的に推進すべき取組を記載する。)

目的・概要	<目的>													
	<概要> (※研究開発課題ごとに、直近の評価結果に記載されている目的及び概要を記載する。)													
課題実施 機関・体制														
年度 (※網掛けは課題実施期間)			2018 FY30	2019 FY31	2020 FY2	2021 FY3	2022 FY4	2023 FY5	2024 FY6	2025 FY7	2026 FY8	2027 FY9	2028 FY10	2029 FY11
研究開発課題評価実施年度														
予算額及び翌年度要求額(億円)														
既存の指標を転記する場合	指標の種別 (測定/成果/活動)	指標	単位	実績値					目標値					
既存の指標以外の指標を記載する場合	指標の種別 <small>(インパクト/プログラム/アウトプット)</small>	指標	単位	実績値					目標値					
既存の指標を参照する場合	指標の種別 (測定/成果/活動)	指標	添付資料の 該当頁(頁)	添付資料の該当頁の該当箇所										
添付資料名	(※当該研究開発課題について、進捗状況を示す資料等を添付し、その資料名を記載する。)													
備考	(※特記事項があればその内容について簡潔に記載する。)													

4. プログラムの現状についてのコメント(任意)

(※分野別委員会等として、本プログラムの進捗状況におけるコメントがある場合は記載する。)
--

5. 参考

政策・施策番号	
施策目標	
達成目標番号	
達成目標	

行政事業レビュー事業番号	
行政事業レビュー事業名	
行政事業レビュー事業目標	

1. 〇〇分野研究開発プランを推進するにあたっての大目標:「〇〇」(施策目標〇-〇)

概要	(※当該分野研究開発プランに記載のプランを推進するにあたっての大目標の概要を記載する。)	※青字: 第78回(資料2-1-3)から追記した箇所 ※青字取消し線: 第78回(資料2-1-3)から削除した箇所
----	--	--

2. ◆プログラム名: 〇〇分野

概要目標	(※当該分野研究開発プランプログラムに係る政策評価における施策の「達成目標」に記載のプログラムの概要を記載転記する。)
------	---

3. プログラムの実施状況

(1) ≪プログラム全体に関連する指標及びその状況特記事項≫ (※プログラムで設定した政策評価、行政事業レビューの指標とその状況を参考に記載。←それ以外の指標の設定→変更可)

※プログラム開始から終了等の適切な年度までについて記載する。

年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029
	FY30	FY31	FY2	FY3	FY4	FY5	FY6	FY7	FY8	FY9	FY10	FY11
アウトプット 測定指標												
アウトカム成 果指標												
活動指標												
備考	(※特記事項があればその内容について簡潔に記載する。)											

(2) ≪個別の研究開発課題に関連する指標及びその状況特記事項≫ (※政策評価、行政事業レビューの指標を参考に記載←それ以外の個別の指標の設定→変更可。)

※研究開発課題数に合わせて記載欄は調整する。

※研究開発課題評価実施年度の欄に、評価実施(予定)年度に従い、「事前」・「中間」・「事後」と記載する。

※各研究開発課題の進捗状況把握のため、政策評価における事前分析表及び行政事業レビューシートを使う場合は、当該資料を添付し、使用する指標について「既存の指標を参照する場合」欄に必要事項を明記することで、「既存の指標を転記する場合」欄への転記を省略することができる。

※事前分析表及び行政事業レビューシートに記載されている指標以外の指標を設定する場合は、「既存の指標以外の指標を記載する場合」欄に必要事項を明記すること。インパクト/アウトカム/アウトプットの定義については、「文部科学省における研究及び開発に関する評価指針」(最終改定平成29年4月1日)「本指針における用語・略称等について」を確認すること。

※「既存の指標を転記する場合」欄～「既存の指標を参照する場合」欄について、使用しない行は削除すること。また、目標値を設定していない年度については「-」と記載する。

①□□□・・・ (※プログラムに記載の重点的に推進すべき取組を記載する。)

目的・概要 目標	<目的> <概要> (※研究開発課題ごとに、直近の評価結果に記載されている目的及び概要、目標を記載する。)												
課題実施 機関・体制													
年度 (※網掛けは課題実施期間)		2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029
		FY30	FY31	FY2	FY3	FY4	FY5	FY6	FY7	FY8	FY9	FY10	FY11
研究開発課題評価実施年度													
予算額及び翌年度要求額(億円)													
測定指標													
成果指標													
活動指標													
既存の指標を 転記する場合	指標の種別 (測定/成果/活動)	指標	単位	実績値					目標値				
既存の指標以 外の指標を記 載する場合	指標の種別 (測定/成果/活動/活動)	指標	単位	実績値					目標値				
既存の指標を 参照する場合	指標の種別 (測定/成果/活動)	指標	添付資料の 該当頁(頁)	添付資料の該当頁の該当箇所									
添付資料名	(※当該研究開発課題について、進捗状況を示す資料等を添付し、その資料名を、また、特記事項があればその内容について簡潔に記載する。)												
備考	(※当該研究開発課題について、進捗状況を示す資料等を添付し、その資料名を、また、特記事項があればその内容について簡潔に記載する。)												

②△△△・・・ (※プログラムに記載の重点的に推進すべき取組を記載する。)

目的・概要 目標	<目的> <概要> (※研究開発課題ごとに、直近の評価結果に記載されている目的及び概要、目標を記載する。)											
課題実施 機関・体制												

年度 (※網掛けは課題実施期間)				2018 FY30	2019 FY31	2020 FY2	2021 FY3	2022 FY4	2023 FY5	2024 FY6	2025 FY7	2026 FY8	2027 FY9	2028 FY10	2029 FY11
研究開発課題評価実施年度															
予算額及び翌年度要求額 (億円)															
測定指標															
成果指標															
活動指標															
既存の指標を 転記する場合	指標の種別 (測定/成果/活動)	指標	単位	実績値						目標値					
既存の指標以 外の指標を記 載する場合	指標の種別 <small>(インパクト/アウトカム/アウトプット)</small>	指標	単位	実績値						目標値					
既存の指標を 参照する場合	指標の種別 (測定/成果/活動)	指標	添付資料の 該当頁 (頁)	添付資料の該当頁の該当箇所											
添付資料名	(※当該研究開発課題について、進捗状況を示す資料等を添付し、その資料名を、また、特記事項があればその内容について簡潔に記載する。)														
備考	(※当該研究開発課題について、進捗状況を示す資料等を添付し、その資料名を、また、特記事項があればその内容について簡潔に記載する。)														

③▽▽▽・・・ (※プログラムに記載の重点的に推進すべき取組を記載する。)

目的・概要 目標	<目的> <概要> (※研究開発課題ごとに、直近の評価結果に記載されている目的及び概要、目標を記載する。)														
課題実施 機関・体制															
年度 (※網掛けは課題実施期間)				2018 FY30	2019 FY31	2020 FY2	2021 FY3	2022 FY4	2023 FY5	2024 FY6	2025 FY7	2026 FY8	2027 FY9	2028 FY10	2029 FY11
研究開発課題評価実施年度															
予算額及び翌年度要求額 (億円)															
測定指標															
成果指標															
活動指標															
既存の指標を 転記する場合	指標の種別 (測定/成果/活動)	指標	単位	実績値						目標値					
既存の指標以 外の指標を記 載する場合	指標の種別 <small>(インパクト/アウトカム/アウトプット)</small>	指標	単位	実績値						目標値					
既存の指標を 参照する場合	指標の種別 (測定/成果/活動)	指標	添付資料の 該当頁 (頁)	添付資料の該当頁の該当箇所											
添付資料名	(※当該研究開発課題について、進捗状況を示す資料等を添付し、その資料名を、また、特記事項があればその内容について簡潔に記載する。)														
備考	(※当該研究開発課題について、進捗状況を示す資料等を添付し、その資料名を、また、特記事項があればその内容について簡潔に記載する。)														

4. ◆プログラムの現状についてのコメント (任意)

(※分野別委員会等として、本プログラムの進捗状況におけるコメントがある場合は記載する。)
--

5. ◆参考

政策・施策番号	
施策目標	
達成目標番号	
達成目標	

行政事業レビュー事業番号	
行政事業レビュー事業名	
行政事業レビュー事業目標	



今後の分野研究開発プラン及び分野別研究開発プログラム評価  
 に関するスケジュール

	研究計画・評価分科会	分野別委員会等	
令和 3 年 8 月 27 日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務局提案の分野別研究開発プラン (仮称) 及び分野別研究開発プログラムの策定の進め方について議論</li> <li>分野別研究開発プログラム評価の素案について紹介</li> </ul>		
		研究計画・評価分科会議論の結果を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> <li>各分野別委員会等において分野別研究開発プラン (仮称) 及び分野別研究開発プログラムの策定の進め方について議論</li> <li>分野別研究開発プログラム評価の素案について紹介</li> </ul>	
令和 4 年 1 月 26 日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>分野別研究開発プラン (仮称) の策定の進め方について決定</li> <li>分野別研究開発プログラム評価の議論</li> </ul>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>分野別研究開発プラン及び分野別研究開発プログラムを策定 (政府全体の戦略・計画がなく、文科省独自の戦略・計画が必要な場合は、分野別委員会等で策定し、計評分科会で別途決定)</li> </ul>	
令和 4 年 3 月 3 日 (木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>分野別研究開発プログラム評価の今後の進め方、プログラム評価のフォーマットについて</li> </ul>		
			<ul style="list-style-type: none"> <li>研究計画・評価分科会議論の結果を踏まえ、分野別研究開発プログラム評価の今後の進め方、プログラム評価のフォーマットについて議論</li> </ul>
令和 4 年 6 月頃	<ul style="list-style-type: none"> <li>分野別研究開発プログラム評価の今後の進め方、プログラム評価のフォーマットについて決定</li> </ul>		
令和 4 年 8 月頃	<ul style="list-style-type: none"> <li>分野別研究開発プラン及び分野別研究開発プログラムを決定</li> </ul>		
			<ul style="list-style-type: none"> <li>分野別研究開発プログラム評価のフォーマット作成、評価</li> </ul>
令和 4 年冬頃	<ul style="list-style-type: none"> <li>分野別研究開発プログラム評価の決定</li> </ul>		